



JST 理事長 記者説明会

平成31年1月23日



科学技術振興機構



新年の抱負



科学技術振興機構

平成31年度政府予算案のポイント①

科学技術イノベーションの総合的な推進機関として、基礎研究から実用化まで一貫した研究開発の支援とともに、我が国の強みを支える科学技術基盤の強化を目指す。2019年度においては、「第5期科学技術基本計画」、「統合イノベーション戦略」、及び法人自らの改革プランである「濱口プラン」等を踏まえ、変容する社会に対応し、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、ハイリスク・ハイインパクトな研究開発等の推進に積極的に取り組む。

■平成31年度政府予算案(平成30年度予算額) <一般勘定のみ>

政府支出額 1,037億円(1,010億円) 対前年度比 +2.7 %

うち、運営費交付金 1,005億円(1,008億円)

施設整備補助金 16億円(1億円)

革新的研究開発推進プログラム(ムーンショット型研究開発制度)
16億円(新規)

※施設整備費補助金には臨時・特別の措置を含む

※四捨五入の関係で合計の数字は一致しないことがある。

平成31年度政府予算案のポイント②

(1) ハイリスク・ハイインパクトな研究開発の推進

以下、平成31年度政府予算案における内訳、()内は平成30年度予算額
(ともに運営費交付金中の推計額)

●未来社会創造事業の拡充 65億円(55億円)【拡充】

経済・社会的にインパクトのあるターゲット(ハイインパクト)を明確に見据えた技術的にチャレンジングな目標(ハイリスク)を設定し、民間投資を誘発しつつ、戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業等から創出された多様な研究成果を活用して、実用化が可能かどうかを見極められる段階(概念実証:POC)を目指した研究開発を実施する。

(2) 若手研究者へのファンディングの充実・強化

●さきがけの新規領域拡充・「ACT-X」の新設・独立する「さきがけ」研究者の研究環境整備支援 新技術シーズ 424億円(434億円)の内数

社会的・経済的ニーズ等を踏まえ、トップダウンで定めた方針の下、組織・分野の枠を超えた時限的な研究体制(ネットワーク型研究所)を構築し、我が国の重要課題の達成に貢献する新技術の創出に向けた研究開発を推進する。

(3) 基礎研究から社会実装までの一貫した研究開発の立案

●研究開発戦略立案のための情報基盤システム整備事業 0.5億円【新規】

JSTのエビデンスデータの収集・調査・分析機能を強化し、基礎研究から社会実装支援までの一貫した研究開発戦略の立案と、JST全体での研究開発成果の最大化を目指す。

(4) SDGsの達成に向けた課題解決・共創の推進

●地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)の拡充 18億円(17億円)【拡充】

●社会技術研究開発の拡充 14億円(14億円)【拡充】の内数

SDGsの達成に向け、研究成果の社会実装を加速させるべく、相手国政府の協力を得て出口ステークホルダーとの連携・協働に繋げるなど新たに橋渡しスキームを構築する。また、専門人材を活用しつつ社会課題や解決のボトルネックの明確化・シナリオ創出から社会課題のソリューション(実証事例)創出までを一體的に推進する。

平成30年度補正予算(第2号)のポイント

■科学技術イノベーションの推進、及び 防災・減災、国土強靱化のための緊急対策 として措置

科学技術振興機構 合計 802億円

(1)ムーンショット型研究開発制度の創設 [800億円]

我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発(ムーンショット)を推進する。
革新的研究開発推進基金を新たに造成。

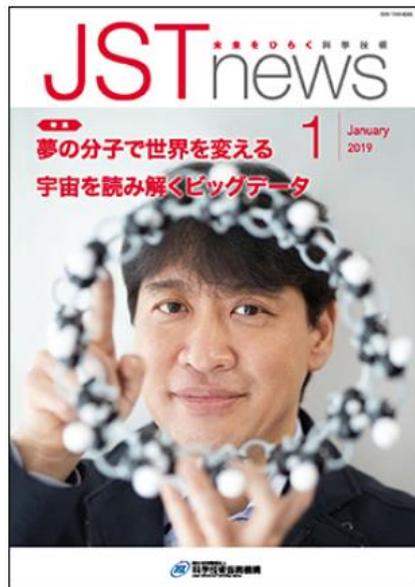
(2)研究開発法人施設等の防災基盤の強化 [2億円]

日本科学未来館における施設の整備を行う。

講演者紹介

伊丹 健一郎（名古屋大学 大学院理学研究科 教授）

（名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長・教授）



・JSTニュース1月号
「夢の分子で世界を変える」

ERATO 伊丹分子ナノカーボンプロジェクト研究総括

半世紀以上も化学者が挑み続けてきた「カーボンナノベルト」の合成が実現した。世界初の快挙を成し遂げたのは、伊丹健一郎教授。この夢の分子はカーボンナノチューブの鋳型として、次世代材料と期待されるナノカーボン材料の精密合成や高機能化に道を拓く。

1998年 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。京都 大学大学院工学研究科助手や名古屋大学 物質科学国際研究センター准教授を経て、2008年より同 大学院理学研究科教授。2012年より同大トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長・教授。2005～2009年 さきがけ 研究者。2013年よりERATO伊丹分子ナノカーボンプロジェクト研究総括。